

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の100%を除いて、③「関心のある内容である」は25.0%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。 2. 授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は80.3点であった。そのうち、80点以上は2名、70点以上は2名ということから、標準レベルに達していた。 2. DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。 3. 学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習」を「週6回」は1人であった。以上から、全体を通して目標を達成し、知識理解も達成されたといえる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3.5点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.8点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.8点であった。一方、「職業選択の参考になった」は3.0点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>1. 授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は3.8点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会が つくられていた」は3.8点であった。次年度も、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。 2. 「授業の課題以外に学習に 取り組みましたか」で「していない」は3人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。 2. 情報・図書館利用はあまり 積極的ではなかった。引き続き、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べる ことができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場 面を設けていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均点は80点であり、全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに 明確に関連付けることが必要であると考え。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであるとする。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	運動(身体活動)に必要な栄養摂取の在り方や、運動時に体内で起きている栄養代謝の内容とそのメカニズムを学び、身体活動を活発にすることが、結果として我々の疾病の予防や健康の維持・増進に以下に役立つかを理解する。また、学んだことを実行に移す力を身につけることにも重点を置いた内容とした。多くの学生がこの科目を履修するのは、管理栄養士国家試験受験資格取得に関わるとしていることもあり、国家試験において頻繁に出題される心身を取り巻く、ストレス、生活リズム、高温・低温、高圧・低圧及び無重力環境と栄養とのかかわりについても取り上げる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		教育目標の達成度は、マークシートによる試験により判定した。出題レベルは、管理栄養士国家試験レベルの問題とした。本試験の合格者は89名中88名で不合格者は1名であった。本試験の平均点は88.0±6.06点であり、84名が理想的なレベル(概ね80点以上)に到達しており、知識理解、思考判断に関する目標は達成されたと考えられる。学生自身の意欲関心についても、アンケートの到達度自己評価を見ると、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が98%以上あり、この科目についての教育目標は達成されているものと判断した。				

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、応用栄養学分野の、運動と栄養に関するトピックを抽出し、より実践的な知識と技術を身につけることを目指している。管理栄養士国家試験の受験資格取得に必要な科目であること且つ必須科目であることから、学生の講義に対する姿勢や、学習到達度自己評価も肯定的な意見が非常に多いことから、内容は妥当であったと考える。加えて、大半の学生が理想的なレベルの成績を収めており、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のすべての項目において「まあまあと思う」という肯定的意見が98%以上ではあるが、平均値が3.3であったことを考えると、満足度を上げる工夫が必要であると考え。具体的には、本科目は3年次開講科目であることから、より実践的な或いは身近な内容を多く取り入れることで、能動的な学習活動に結び付けていくことを考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の位置づけから、知識理解度及び思考判断、意欲関心についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考え。学習量の評価において、予習・復習を全く行わなかった学生が7割もいたことから、意欲から行動に結びつくような動機づけを考えていく必要があると考えられる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養疫学	2	後期	選択	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養疫学は管理栄養士必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。 ⑤授業中に論文を読み、議論する場を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は78(±9)点であり、再試験後不合格者は0名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同じレベルであり、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は94%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も93%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、管理栄養士必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、態度に関し、目標は達成したが、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.4であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.4で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3で低かったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。</p> <p>学生の意見として、テキストが分かりやすかったという意見があり、次年度からは講義も分かりやすいものにしたいと思います。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲、技能表現の面では課題を残した。今後、栄養疫学の疫学調査法の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。</p> <p>講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としている。また、グループ学習を通して多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標に掲げている。</p> <p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由である。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていないことから、今後は準備性を把握し授業計画に活かしたいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、74.0点であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者(70点以上)は78名(86.6%)であり、その中でも理想的レベル(80点以上)に達した者は6名(6.7%)であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に発表に対する取り組み方に課題がみられたため、授業オリエンテーションや毎授業で学習への意識が高められるように促していきたい。</p> <p>学習到達度の自己評価においては、どの項目においても90%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。そこで、図書館利用の項目から情報収集の方法について確認すると、インターネットを利用が57%、図書館での図書・雑誌の利用が31%、学術データベースの利用は19%であった。インターネットによる情報収集に頼っている学生が多いため、根拠のある情報を収集するためにも、図書や雑誌の利用、また学術データベースを利用する学生を増やすことも今後の課題であると考ええる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力および個人栄養教育、集団栄養教育で適切な栄養教育を実施する力を養う科目であるため、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ずしも身に付けておくべき分野である。また、学生の成績より一定の成績を取めているという結果から、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価は、DP5の「技能・表現」を重視し、課題や発表など授業内での取組により行った。学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は98%の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約10%の学生が回答していたこと。学生にとって基準が明確でなかった点があったのではないかと考えられる。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目の教育目標および学生の到達目標は概ね達成されたと考えられる。しかし、授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目で、3名の学生より「少しそうでないと思う」と回答が得られた。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、殆どの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言いがたく、受講後の復習も不足していた。栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度以降、現行の確認テスト以外に、何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は71.4(±10.4)であり、昨年度(66.0(±12.2)点)よりも高い得点であった。また、本試験合格者は全体の91%であり、成績の平均値同様、昨年度(73%)よりも多かった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、39名(46%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は19名(21%)であり、いずれも昨年度よりも大きく上昇した。本科目では2016年度より、確認テストの導入を行っており、このことが学生の目標達成の成果の一端と考えられる。また、約65%の学生が標準的および理想的レベルを達成できたことは、引き続き、確認テストを実施し、さらに、何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、実際、例年に比し、学生の成績評価は上昇した。加えて、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものとするが、次年度以降、より一層の専門的知識および技術の修得を目指す所存である。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目では板書での記録しているため、80%以上の学生が『自分なりのノートを作成した』との回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。また、学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、実際、例年に比し、学生の成績評価は上昇した。今年度に引き続き、次年度以降も確認テストの実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>In the second semester of this Oral English course, we used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units We spent more time on speaking activities to improve fluency. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students performed well. Each week the students were given a short comprehension quiz as well as making a short presentation on the subject matter related to the text. They also wrote sentences using new vocabulary presented in the lesson. Students made positive comments on the evaluation sheet forms.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Again I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

More pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These exercises helped students review and reinforce their basic English skills.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework 25%, presentations 10%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 75-80% range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>Better use of supplementary materials and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to complete class workbooks without the guidance of the teacher in order to save class time.</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ほとんどの受講生が「必修科目である」から受講したという消極的な理由をあげている。このことから、また事前の受講生へのアンケートからも英語に対する学習意欲が高いとはいえない状況であった。事前アンケートでは英語に対して苦手、文法がわからない、何をしたいかわからないなどのコメントが寄せられた。</p> <p>そこで英語の基礎力養成として英語の語順理解(スラッシュリーディングの活用)と語彙習得(学習アプリQuizletの活用)と音読の3本柱で授業をデザインした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						
		<p>全体の成績は期末試験の点数でほぼ決まる割合であった。期末試験の問題構成としてはスラッシュリーディングと単語(単純なマッチングの問題)で6割以上は点数が取れるものとした。スラッシュリーディングの問題ではほぼ全員が満足のいく点数であったが、単語の問題に関しては半分に満たない学生も多く、こちらの期待通りの結果とはいかなかった。期末試験全体の平均は65点前後であった。</p> <p>スラッシュリーディングは授業で毎回行っていたので期末試験でも問題なくできていたのだが、単語については小テスト2回でレビューしただけであったので、期末試験であまりよくない結果となってしまったかもしれない。小テスト自体の成績も20点満点中13点の平均値であった。</p> <p>以上を根拠として上記の自己評価をした次第である。</p>				

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目であるものの、専門の栄養学との関連は間接的なものであっただけに、学生への動機づけには苦しんだ。テキスト自体が食と健康についての内容なので受講生の専門分野に関連の強いものであったのだが、それを受講生がどこまで意識して読んでいたか、あるいは教師である私がどこまで意識させることができたかを反省している。</p> <p>学生の到達度自己評価でも専門分野との関連項目(4)～(7)では平均3点台前半、中央値3という結果であった。より専門分野である栄養学との関連付けが必要だと実感した。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>和訳は配布して、和訳を見てもわからない英文を学生から募集してそれをピンポイントで解説するというスタイルをとった。これは3授業の質評価欄の(5)学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」という項目の平均点が高かったことから成功したといってよいだろう。</p> <p>学生の自由記述からはQuizletへの評価が高く導入してよかったと思っている。アプリを使ってゲーム要素を取り入れたことで語彙学習へのハードルを下げる一助にはなっただけである。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業中での音読活動とペアワークの時間が当初の予定より少ないものであったため、より効率的な授業デザインをして音読練習とペアワークの時間を確保したいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
衛生学	2	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①衛生学は選択科目であるが、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」45.5%で、「関心のある内容である」3%で、「単位数を確保する」は54.5%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は65.8(±8.0)点であり、再試験後不合格者は0名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達していなかった。</p> <p>②次年度は成績を標準的レベル(平均点70点)まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は94%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も97%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、選択科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.4で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。</p> <p>学生の意見として、特になかったが、今後は授業の進めるスピードを調整し、面白い講義にしたいです。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。</p> <p>講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	後期	必修	はい	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が98.8%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が7.1%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようになっていく必要がある。</p> <p>②これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた上、「興味もてる内容であった」「楽しく講義を受けた」というコメントもあった。テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラスおよび再履修101名の受講生中、A(秀)が2.0%と低めではあるが、B(優)が26.7%であり、C(良)が26.7%と同率であった、D(可)が21.8%で、不可の学生は18.8%ととても多かった。クラス別比較すると、Aクラスに不可の学生が多く、クラスのレベルによる授業進行の配慮も必要になることも考えた。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、少ないが2%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、57.5%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98.8%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、約57%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は59.4%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だと思いが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通しているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後は講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した、昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく、さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。また、学生の意見の中に「話すスピードが速い」という意見があった、これに関しては応用栄養学Ⅰ、Ⅱ全30回で、応用栄養学の全部を教える必要があるため、このスピードについてきてほしいということを初回の講義で伝えるようにしている。授業の進行上、個々人のノート記入スピードに合わせた対応は難しいため、ノート記入が間に合わなかった学生に関しては、復習時に友人からノートを見せてもらう、担当教員に聞くなどの自己学習を行うよう促している、今後もそのように促していく。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	後期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が97.6%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が1.2%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ(2年後期、3年前期)の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、この実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、楽しかったなどの興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)の一部に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は93名の受講生中、A(秀)が22.6%と高かった、B(優)が38.7%と多く、C(良)21.5%であった、D(可)が9.6%で、不可の学生は5名であった。今年度はA(秀)の学生の割合が高いことに知識・理解の高さがうかがえた。また、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、課題への取り組みや提出物、調理技術等で行った。受講生全員が標準的レベルに達しており、22.6%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験および課題点を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるものの、今年度の理想的レベルに達していた学生の割合は非常に高く受講生の多くに、実習受講に対する意欲の高さがうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、試験結果や、課題内容、自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、多くの学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生も多かった、今後も図書館の利用をすすめていく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学習量の評価では、多くの学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は31%であった。シラバスを参考にした学生の31%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも低かった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、多くの学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は27%であった。シラバスを参考にした学生の28%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも低かった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	---

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。</p> <p>②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。</p> <p>③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。</p> <p>④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の結果 本試験の合格者は78名中71名で再試験者は7名であり、再試験の結果、3名が再履修となった。最終成績の平均点は69.7±7.26点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。標準的なレベル(概ね70点以上)は39名と受講者の半数程度いたが、理想的なレベル(概ね80点以上)が5名とごく限られたものであった。来年度は、全体として理想的なレベル(平均点が80点以上)になるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が10%程度あることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。</p> <p>③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館等の利用を促したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.4と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全て本学ホームページ内にある「講義資料配布」システム上にアップロードしており、いつでもどこでもカラーの資料をダウンロードできる環境を整えていたにもかかわらず、予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。</p> <p>配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	132

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上、寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ受講生の興味と関心を引きつけるように務めた。</p> <p>②教科書を中心にして不足分をプリントで補う形式で授業を進めた。教科書を使うと明らかに受講生の理解、特に、復習時の理解が深まるようである。</p> <p>③記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。</p> <p>④管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。</p> <p>⑤授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に大きな悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、緩急の匙加減が非常に難しい科目である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>①今年度の結果(前年度との比較考察を含めて) 本試合合格者は92名(76%)で前年の53名(50%)を大きく上回った。再試験受験者は28名で前年の40名を下回った。再試験未受験者は7名で、前年の15名より減少した。再試験の合格者は24名(86%)で、前年の15名中10名で(67%)よりも合格率が上がった。最終的に、再試験未受験者7名に再試験不合格者4名を併せて、再履修者が11名で前年の28名を下回った。再履修者(3・4年生)の38名中37名が合格(前年は、17名全員合格)であった。</p> <p>②本試と再試を総合すると、受験者119名中108名(91%)が合格で、前年の107名中79名(74%)の合格率を上回った。前々年度が、131名の受験者中108名(82%)が合格であったので、この3年間で、もっとも高い合格率であった。最終評価は、秀1名、優13名、良33名、可71名、不可1名であった。</p> <p>③これまで、本試験の出来・不出来は、試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまで7年間の試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はやや低いものの、理想的レベルに達していた。学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」が、例年と同じく高評価であった。</p> <p>④クラス間差について 平均点はAクラス64.5点(標準偏差9.2)、Bクラス62.3点(標準偏差2.8)(前年は、58.6点と56.8点)で大差なかった。標準偏差は、Aクラス9.2、Bクラス2.8であり、これは差があった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①例年、「話すスピードが早い」との評価が多く、十分に注意して「ゆっくり明確に話すよう」心がけた。 ②昨年度の反省をもとに、今年度の新たな試みとして、食材や加工食品、加工機器の写真をスライドで見せた結果、理解度が向上した。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてももう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対処したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、「必修科目である(86.2%)」と「資格取得に必要である(27.7%)」が高く、一方「関心のある内容である(3.2%)」は低い値であった。傾向は昨年度と同様であるため、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績では9割以上の受講生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ3.5であった。最も低かった項目は、「自分なりの目標を達成した(3.4)」であった。傾向は昨年度よりも全般的に得点が高く、各項目の得点間にバラつきが少なかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業への「意欲関心」の低さに苦慮する面があったが、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったことから、内容的には妥当であったと判断した。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、昨年度より全般的な改善があった。昨年度、最も得点が低かった「学生が参加する機会が作られていた」「学生の質問に答える機会が作られていた」についても、わずかであるが得点が向上した。講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この理由として、昨年と同様に「授業への動機づけが低い」ことがあげられる。また、学生にとって学習難易度の高い科目の負担が大きく、「(実習・実験系の科目の課題やレポートへの対応で)時間がない」との意見も出されている。引き続き、学生にとっても可能なことから主体的な取組みを促したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて、授業の内容についての調べ学習や図書館の利用など主体的な学びを促したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択		9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、学校栄養指導論Ⅰの内容を踏まえ、小学校、中学校での食に関する指導において、児童・生徒が理解しやすい内容の授業を組み立て、実践につなげる力を身に付けることを目標としている。栄養教諭を取得するために必須であるため、受講動機は必修科目である、資格取得に必要であると回答している。授業計画は、4年次での栄養教育実習にむけて必要な知識や技術を修得できることに重点をおいて実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>本科目の受講者は9名であり、少人数のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価では、全てにおいて「そうだと思う」と答えている。成績評価は、筆記試験、模擬授業、提出物で評価した。以上のことより、概ね教育目標は達成されたと考える。しかし、思考判断、技能表現に関しては、模擬授業等を通して栄養教諭として理想的なレベルに達しているとは評価できなかったため、この2点に関しては栄養教育実習に向けての課題であると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。しかし、学生の進捗状況に差があるため授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。 年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。しかし、学生の進捗状況に差があるため授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。 年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、履修者数が少人数であり、授業評価からは客観的な評価はできないが、概ね教育目標は達成されたと考える。課題は、栄養教諭としての表現力や思考判断力が理想的レベルに達していなかったため、次年度は個別指導を取り入れる等、改善に向けて検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習VI	4	後期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、公衆衛生学および病態医学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学および病態医学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①本試験の成績の平均値は63(±12)点であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは薬50%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」である。選択科目であるが、管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.3と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。</p> <p>学生の意見としては、「過去問を解いた」が多く、学生が授業の内容を踏まえて、国家試験に向け、しっかり取り組んだことがうかがえる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間ができた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。</p> <p>以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。</p> <p>配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅶ	4	後期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機の内訳は、「必修科目である」が31.5%、「資格取得に必要である」が64.4%であった。この科目は、管理栄養士必修ではないが管理栄養士国家試験の受験には重要な科目である。管理栄養士を目指す学生には、この点を十分に自覚させ、モチベーションを高めて受講させる必要がある。また、「関心のある内容である」と答えたものが、昨年同様、わずか5.5%であった。解剖生理学、生化学、基礎栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でどのように活用されているかを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明するよう心掛けたが、まだ十分とは言えなかった。</p> <p>②解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、オリジナル練習問題、管理栄養士国家試験の過去問などを題材に、ただ単に丸暗記するのではなく、からだのしくみを理解した上で、それを実際の栄養治療、栄養指導に応用できるようになることを目標に講義してしていきたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の成績の平均点は、68.9点(±11.9)であった。90点以上(A)が5名、80～89点(B)が14名、70点～79点(C)が28名、60点～69点(D)が33名で、60点未満の不可は18名であった。60点未満の割合が昨年に比べ、7.8%から18.2%とかなり増加していた。「学習量の評価」においても、予習・復習を複数回実施している割合が減少していた。これは、基礎栄養担当の教員が、病気の入院のため、12月以降、講義ができなかったこと、また、新任教員(解剖生理担当)が本学の演習のやり方に不慣れであったことなどが影響していると思われる。ただ、学生の授業評価アンケートにおいて、「到達度自己評価」の関連項目(項目(1)～項目(7))では、項目(3)の3.0点以外は、すべて平均値が3.1点であるので、昨年の平均3.3点に比べると成績が落ちているとはいえ、ある程度は教育目標を達成できていると考えている。また、国家試験の合格率、合格者数は昨年を上回る好成績であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の科目で、管理栄養士国家試験受験資格の取得には必修ではないが、国家試験の基礎科目として重要である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えているつもりであるが、必ずしも十分ではなかった。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績は昨年に比べ下がったとはいえ、ほぼ平均レベルに維持されていることから、内容的にはおおむね妥当であったと考える。ただ、教員の怪我による休職で後期後半の学生支援ができなかったこと、学生との意思疎通が必ずしも十分でなかったことなどが今後の改善すべき点として挙げられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準の提示」の平均値が3.2点、項目(2)の「学習の範囲・課題の提示」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」の平均値が3.1点であった。解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学士の苦手とする科目であるので、よりわかりやすい説明を心掛けていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識をできるだけ実際の事例に関連付けることで、説明をより具体的なものとし、学生の本科目への興味・関心が高まるようにしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅷ	4	後期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象としたものであり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握するよう設計されている。従って、受講動機が「資格取得に必要である」に大きく偏っていることは必然として理解できる。 ②4名の教員によるオムニバス形式の授業であり、全体の様子を統一して受講生が戸惑わないよう配慮して学習の便宜を図っている。 ③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であり、前期においては国家試験の過去問の理解に重点をおいて授業を実施している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果(前年度との比較考察も含めて) 本科目は選択科目であり、万が一単位取得が出来なくても国家試験受験資格を失うことはない。国家試験直前であり受験生の気を緩めさせてはならない時期であることから、担当教員4名の申し合わせにより、・質の高い設問を設けること、・難易度の高い設問を設けること、の2方針のもと定期試験問題を作成した。その結果、今回の最終成績の平均点は素点48.4点(前年は36点、前々年度は38点)、平常点加味後は55.8点(前年は54点、前々年度は55点)、標準偏差10.9(前年は36.1)、であり、合格者10名(前年は3名)、不合格者89名(前縁は67名)であった。これは例年に比べ良い結果であり、今年度の国家試験合格率が99%であったことを考えれば、今回の到達度も前年同様、十分満足できる結果であると判断できた。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」については、例年と大きく変わることがなく、特記すべき点はなかった。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」については、昨年度も記載したが、本授業が到達目的としているものとは異なっており、学生がアンケート用紙に記載する時点で省いておいた方がよいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならぬ。学習の動機付けは容易であり、学生も、結果的に国家試験で良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったこと、これまで課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>国家試験の結果が本科目のすべてである。今年度は、受験資格を緩和したため、例年70名前後の受験者であったものが、大幅に増加して98名が国家試験を受験した。成績下層部の学生数が増加したことで、合格率に大きな危惧を抱いていたが、全教員が一致団結して厳しい指導を徹底して行った成果もあって、不合格者1名のみでとどめることができ、大成果を上げることができた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①これまで試行錯誤しながら、さまざまな問題に対してそれぞれ工夫を施して対処してきた結果、国家試験の結果に反映するようになった。本年度も昨年度と同様に実施し、極めて素晴らしい成果が得られたことは喜ばしい。</p> <p>②昨年に引き続き、授業の出席率が非常に悪い学年であった。自己本位主義が広く深くはびこっており、人間教育という観点から見れば、まったく手の施しようのない状態が今年度も続いた。卒業や国家試験受験に必要な科目では、一部の熱心な学生を除いて多くが出席しないという有様であった。補講にいたっては、そのような状況が顕著に表れた。欠席の際も、再三の注意喚起にもかかわらず、欠課届けを提出する学生はほぼ皆無に等しかった。学生評価にも、そのような学生気質が反映され、教員個人を誹謗中傷するような記述が多く見られた。ありもしないことが多く記載され、教員批判が噴出したが、これはひとえに、学生自身が「国家試験を怖れて」と「受験勉強の苦しさ」のはけ口にしていたように見受けられる。ただ、批判のし方に法律上の問題があると思われ、学生の人格教育上、何らかの対処が必要だと感じられた。学生が記載する際、「法的に問題がある記載については訴えられることがある」旨の指導が必要である。教務課でのご検討をお願いしたい。このような、近年の、学生の人格面での質の大幅な低下対策は、本学学養学科の大きな課題である。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ	4	後期	選択	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『栄養教育論』および『臨床栄養学』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『必修科目である』『資格取得に必要である』との理由が半数以上を占めている。また、後学期開講のため、国家試験が近づいていることもあり、本科目と同様の位置づけにある前学期開講の『管理栄養士演習Ⅳ』に比し、予復習時間ならびに自発的学習は確保されていた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の本試験成績の平均値は78.9(±11.9)点であり、大多数の学生が標準的レベル(70点以上)に達することができたものと推察される。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができており、また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述:国家試験の過去問等)』と回答していた。このことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次後学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても標準的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述:国家試験の過去問等)』と回答していたことから、予復習の時間は確保されていたと考えられる。一方、図書館の図書・雑誌やインターネットのホームページの利用については、80%以上の学生が利用しなかったと回答しており、自己学習の動機付けとしても予復習時の図書館の積極的な利用を促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の資格取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績も良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、講義内容等についての問題はないものとする。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ	4	後期	選択	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士受験資格必修科目であり、卒業必修ではないが、受講動機において必修科目であるが82.7%、資格取得に必要が46.9%となっている。本科目を履修している学生は、管理栄養士国家試験受験希望者のみであるため、必修科目＝資格必修と考えてると推察される。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においても、「知識の確認、修正、習得」は98.8%と高かった。しかし、本科目の平均点は60.6(±12.6)点であり、昨年平均点66点から下がった。これは、学習量においても準備をしなかった者が昨年は20.3%であったのに対し今年度は37.3%、復習をしなかった者は昨年は17.4%であったのに対し28.9%と高いためと推察される。次年度は、授業時間外の課題を出すなど自己学習の機会を作るように努めたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は4年後期開講であり、大学全期間を通しての最終的な仕上げ科目である。管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目で、専門職業人である管理栄養士としての就職が内定している学生も多いことから、受講動機および学習到達度も高く(100%)、また実際の国家試験の合格率(99.0%)とリンクしていることから、科目の内容的妥当性は高いと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>教員は学生は購入した指定テキストを活用し、授業を進めたことが自由記述からも推察される。 しかし、昨年度に比べ、学習量の低下がみられることから、次年度は過去問演習プリントの提供など工夫をしたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目における授業方法は、国家試験の合格率が高かったことから、効果を上げていると考えられる。次年度以降も、現在の方法を基盤とし、各項目の分析をさらに詳細に行い、国家試験対策へ反映していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く後半部分を講義する科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員履修している。ただ、管理栄養士国家試験の受験資格には必修であることを最初の授業で伝えているにもかかわらず、「資格取得に必要である」と答えたものが昨年同様に低かった(今年17.5%、昨年15.9%)。今後とも管理栄養士国家試験の受験資格の取得に必修であることを強調し、受講に対するモチベーションが高まるように努力したい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか1.3%であったが、栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配布した。</p> <p>③授業で使用するパワーポイントの資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。</p> <p>④後期後半(11月末)より、担当教員(南里)の怪我による入院のため、残りの講義を栄養学科・尾上教授(生化学担当)に代講していただいた。急な交代であったにもかかわらず、快く引き受けていただき、その熱心な講義が学生に好評であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>試験成績の平均点(100点満点)は、81.0点(±10.2)で、昨年(79.4点)よりやや好成绩であった。成績の内訳は、A(90点以上)が12名、B(80～89点)が45名、C(70点～79点)が22名、D(60～69点)が6名であった。本試験不合格者(D:60点未満)は4名で、出席数不足による「受験資格なし(休・退学を含む)」が3名であった。本試験不合格者4名のうち、2名が再試験で合格し、1名が再試験欠席、1名が再試験不合格であった。昨年と比較すると、本試験不合格者が多かった半面、成績優秀者が増加し、全体的に高得点側にシフトしていた。(昨年:平均79.4点、A 10名、B 39名、C 30名、D 0名)</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、すべての項目で平均点が3.1点以上で昨年度とほぼ同じレベルであった。試験成績も併せて考えると、十分とは言えないながらも、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(1)～(2)および(4)～(6)については3.3点と本科目の中では比較的高い評価であった。「学習量の評価」では、30分以上の復習を1回以上実施している学生が約18%と昨年より少なかったが、これは担当教員が後期後半に病気休職したため、例年、12月に配付している国家試験過去問題集の自習などができなかったことが影響していると思われる。これからは、練習問題、管理栄養士国家試験の過去問題および基礎栄養のまとめなどの復習課題をなるべく早期に配付し、自学自習のたすけとなるようにしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)と連続した内容の科目なので、全員が履修するように指導している。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績も良好であることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解を中心に試験した期末試験の成績は、おおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、すべての項目が3.1から3.3の範囲で、必ずしも高い評価ではなかったが、この結果は、担当教員が学期途中で代わり、学生に戸惑いを与えたことが影響したと思われる。代講していただいた尾上先生については、熱心な講義が好評であったことが自由記述に記載されている。「説明の理解しやすさ」の項目が3.1と低かったことより、今後、基礎栄養の内容を実際の食生活に関連付けて説明をするなど、より具体的な内容への改善が必要であると思われる。ただ、期末試験の成績が好成績であったことを考慮すると、ある程度は教育目標を達成できていると考えている。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、「基礎的知識の形成」については、ある程度、課題を達成できたが、「思考判断力の育成」については、十分ではない。この点については、授業時間中に課題を与えて考えさせるなどの方法を取りたいが、時間的な制約もあり、実際には実施が難しい。基礎栄養の基礎的知識をできるだけ実際の事例に関連付けて説明することで、学生が「栄養」をより身近なものとして日頃から考えるようにしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	後期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①シラバスや実際の実習内容について予定を説明し、各週で誰が何を担当するかなど、役割分担を事前に決定し、個々人で献立の責任を持たせるようにした。</p> <p>②すべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛り付けるかまでをわかりやすく説明した。</p> <p>③実習の前週に次回の献立内容とポイントを記入するレポートを配布し予習してくるよう促した。</p> <p>④実習時間が短く、数種類の料理を作成するのは大変であるが、なぜそうするか、その理由をいつも説明し、根拠に基づき調理ができるように促した。</p> <p>⑤楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は87.2±16点、試験当日の欠席者が2名、再試10名、無資格2名であった。80点以上が70%であり、79点以下が30%とまずまずのレベルであった。到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.8、4.0、(2)知識の確認修正:4.1、4.0、(3)事象を理解する考え:3.8、4.0(4)課題を検討する力:4.1、4.0(5)的確な判断:4.1、4.0、(6)学習意欲:4.1、4.0、(7)必要とする技術の習得:4.1、4.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。</p> <p>授業の質の評価では(1)課題の評価が明確は平均点3.9、中央値4.0、(2)学習範囲の明確さは平均点4.0、中央値4.0、(3)説明の理解しやすさは平均点4.0、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。</p> <p>学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、学習量の評価の(1)より予習を1回でも行っているものは70名中45名、全く行っていないものが25名であることが分かった。実習をスムーズに効率よく行うには全体の予習が必須であるが、全体の35%が予習を行っていないため、実習の効率や流れに支障をきたしているかと推察される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.8、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を行うことで技術や知識が身についていくが、実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。2年前期の応用調理学実習では参加型実習を組み込んでいる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>35%の学生が予習を行わずに調理実習に臨んでいることは、学習効率が非常に悪いと考えられる。この一部の学生の受け身的な態度を改善するよう対策が必要であると痛感した。対策として、実習前に各自が予習として、作業工程表を作成し、その工程表をもとに調理実習を行っている。1年生の基礎調理であるため、混乱は免れないが、少しずつでも各自ができるようになるように実習を積み重ねていく。また、調理技術をさらに身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的行動を促すよう取り組む。これと同時に、栄養価計算の知識、技術の習得も必要となるため、提出されたレポート課題の評価より、理解が不十分な学生に対しては個人指導を行うようにしている。</p> <p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけるため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるよう組み込んでいきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習 I	2	後期	必修	はい	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が98.7%、「資格取得に必要」が27.8%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進捗度および給食管理に関する習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論に必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。学生には計画段階から考えさせ、実習を通して『人・物・時間』をマネジメントする訓練を行わせている。</p> <p>③実習の性格上、時間外の作業が多いことについて、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関してオリエンテーションで十分に説明を行った。実習内容と趣旨の説明を『実習担当2週間前』、『実習担当1週間前』、『実習担当前日』、『実習担当当日』と時系列で詳細に行い、理解を促した。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。本実習で修得した経営管理の知識を、実習Ⅱで実践・運用していく。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	どちらともいえない	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合成績の平均点は73.3±14.4点(昨年度80点)で、再試対象者は18/89名(20.2%;昨年度10.6%)であり、同レベルの内容で行ったにもかかわらず、昨年度と比較して成績の下降が認められた。再試対象者となった者は、再試験対象者の本試験平均得点は50.1±12.1点であり、本試験合格者の平均得点(80.1±6.7点)と比較すると30点もの差があり、極めてDP1(知識理解)に関しての到達度が低い者である。DP2～5に関しては、実習を通しての実務や課題内容で判断し、標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において高い評価となっており、特に「知識の刷新」「専門性に関する項目」「職業選択」に対する到達度自己評価が高い結果となった。この結果より、特に専門性への理解も進んだと考えられる。学習量の評価では約82%の者が30分以上の予習をした上で実習に参加していた。</p> <p>え</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識、技能ともに実習の中で網羅されており、DP, CP, カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価より、2項目を除く全ての項目で同等の評価を得ており、学科平均以上(本科目全項目3.6)であった。本実習は、課題も多く、時間外に予習し、準備する内容も多い。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。そのため昨年度に引き続き、特にオリエンテーションの内容を充実させ、さらに「教員が指示する」のではなく、「学生同士で考えて、検討し実施する」ことに重きを置いた。2017年度は、時間外の準備等に関して不満は出なかったが、自主性という点では予習・復習の取り組みの状況を見る限り、概ね良好な状況であったことが窺われる。一方で、スタッフ側のマンパワー不足が顕著に出た年度であったため、学生指導が十分に行えなかったことが反省点である。必ずしも専門職を目指すわけではない学生が増加する中で、マンパワー不足の中で専門に特化した実習を運営する難しさを感じる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生よっての取り組みの程度に差が見られ、消極的な取り組み姿勢の学生が増加している現状から、実習初回のオリエンテーションで詳細に実習の趣旨とスケジュールの説明を行っていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>給食提供現場の経営管理分野に関しての科目である。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であることから、例年通り復習に重点を置かせている。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」と「給食施設のマネジメント」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。さらに、診療報酬や介護報酬に関しても、重点的に解説をしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
<p>本試験の成績平均値は63.2±13.7(2016年度65.7点)であり、再試験対象者は32/98名;32.7%(32/96名;33.3%)でほぼ昨年度と同水準であった。再試験対象者の本試験平均得点は48.2±11.5点であり、本試験合格者の平均得点(70.4±7.1点)と比較すると約20点の差が確認された。試験の難易度は例年と同レベル(概ね70点以上の得点を理想レベルとした)であったことから、再試験対象者の標準レベルの到達度は極めて低いと考えられる。本科目は例年試験形式に論述式を多く取り入れており、暗記だけでは対応できない試験形式への準備不足および勉強への取り組みの甘さが考えられる。試験はDP1(知識理解)の評価方法である。全体の知識の理解から定着に至るような授業の工夫を2016年度の課題としていたが、十分な対応ができていなかった点については反省すべきであるとする。学生の到達度自己評価を見ると、知識の刷新に関する自己評価が学科平均値よりも高かった。また、判断力、意欲、専門的な技術等に関する自己評価は同等であり、「知識は得られた」と感じているが「理解」「定着」するまで及ばなかった可能性が見受けられた。「学習量の評価」からは、予習・復習にかかる時間数が圧倒的に不足していることが確認できることから、前述の結果にも影響していると考えられた。</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅰ(給食の運営)の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生が多いことから、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考えられる。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価がわずかに低かった。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。学習量の評価を見ると、予習・復習に取り組む者がきわめて少ないが、自由記述欄から「他科目・実習の課題で時間が取れない」との意見があり(2016年と同様)、これが原因であることが想定される。特に3年後期は多くの実習が配当されているため、予習・復習の時間確保に関しては苦慮するところである。これは、学科全体の問題であると思う。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。DP知識理解の最終評価としては、2016年同様に「知っていて」も「説明できない」ことが浮き彫りとなった。一方で、到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容であった点は評価に値すると思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均は80.62であり、全体の平均の79.86を0.76ポイント上回っている。他の学科に比して良い成績だと言える。自己評価は3.2～3.5であり、「そうでない」という評価をした学生はいなかったのでおおむね学修成果はあがったと解しているのだろう。とは言うものの、自主的な学修活動はほとんど見あたらず、底荷か題はあると言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については2.9～3.3となっており、殊に授業の理解については2.9と低く、講義内容の提示に課題が多いと思う。講義内容の見直しもしくは教授方法の見直しが必要なのだろう。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>成績は良かったものの実質的な学びには到っていないのかもしれない。授業改革をする必要があるだろう。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした</p> <p>②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので一部からは私語が気になるという声も聞かれた。その学生には私語についての説明を行うとともに、将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、私語についても教材化して議論させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均は78.69であり、全体の平均点79.23を0.54ポイントだけ下回る。理想的と言える80点以上の学生は13名中6名(46.0%)であり、昨年の実績をかなり上まわっている。</p> <p>学生の自己評価でも、各項目に於いてほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」というところに記入しており、その平均値は3.0～3.4であって、学生の達成感はまだ高い。学生の自己評価は決してよくはないが、成果としてはやや達成されたと言えるし、知識理解についてはよくやっていると思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価については2.4～3.1の評価ではあった。説明が理解しにくいとの回答が4名ほどおり、他の項目でも授業はわかりにくかったことをあらわしている。1年生にはかなりハードルの高い質の内容なので、もう少し配慮が必要なのかと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>成績評価は小論文式ということもあってそれなりに成績は確保できたが、授業理解ではまだまだ課題が多い。授業内容をもっとわかりやすい方向に改革したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成されなかった	やや達成されなかった	達成されなかった			やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。	<p>○秀優良は0%、可は69.2%、不可30.8%であった。</p> <p>○過去に遡って全学科を通じて最も悪い結果であった。</p> <p>○同一の授業を受講しているにもかかわらず、他学科と比較しても明らかに成績が低い。</p> <p>○学生の基礎学力だけでは説明できず、教員免許取得に関する意識の違いがあるのではと予想される。</p>					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>○次年度以降は教職コアカリキュラムに対応した授業への変更が予定されている。 ○上記との関係から、総花的な知識の習得の割合が増加することが予想されるため、それらの知識を教職イメージとどのように結びつけるかという、授業以外での教職課程履修指導との連動が求められるだろう。 ○複数学科の合同授業であるため、栄養学科の学生だけにターゲットを絞った指導は難しい。できるだけ教員志望者としての意欲を刺激できるような授業内容を工夫したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>○教職コアカリキュラムへの対応が栄養学科の学生にどのような影響を与えるのかは不明である。現代的教育課題やトピックスは増加することが予想されるため、そこから授業への興味を高められるような工夫を行いたい。 ○また授業以外の教職課程における履修指導との連動を行わなければ、授業単体での取り組みには限界があると考え。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習(栄養教諭)	4	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。栄養教諭を取得するために必須となる科目であるため、受講動機は資格取得に必要であると全員が回答した。本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことに重点をおいているため、開講時に各自の栄養教育実習の経験を踏まえ課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、授業計画を行い実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、受講生が11名であり客観的評価はできないが、成績と達成度自己評価(すべての項目で平均4.0以上)より教育目標は概ね達成できたと考える。成績は、提出物、発表(模擬授業及びプレゼンテーション)により評価を行った。学習量の評価では予習復習への取り組みは見られ、栄養教諭として自ら学ぶ姿勢が見られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習を終えた後の教職科目の集大成となる科目である。そのため、栄養教育実習を振り返り各自の課題を見つけ、課題を解決し、栄養教諭として社会にでるための実践的技能と資質・能力の向上を高めることを目指している。学生の最終成績や到達度の自己評価から内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭としての知識・技術の修得や、コミュニケーション能力や表現力を高めることを主な行動目標としている。各自の課題から、模擬授業や研究授業の見学など、学生が体験を通して学べるような授業とした。そのため、到達度自己評価では、高い評価となっていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことを目標としているため、開講時に各自の課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、模擬授業やプレゼンテーションを実施した。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加、特別支援学校の見学等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識することに重点をおいて実施した。 次年度も学生の課題や特性を考慮し、授業計画を行いたいと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、栄養教諭を取得する学生にとって集大成となる科目である。教育者になることを自覚し、自己の課題を持って授業に取り組む姿勢が求められる。授業は、学生が主体的に学べるように演習や体験を多く取り入れた内容とした。また、学科横断的な取り組みとして、他学科の学生ともグループワークを経験し、それぞれの教育実習の経験からディスカッションを行うことで、他教職員との連携やコミュニケーション能力を培うことに繋がったと推測する。以上のことから、授業全体を通して教職科目の集大成として概ね目標は達成できたと考える</p>
------------------------------	--

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。</p> <p>②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。</p> <p>③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>④健康科学実習Ⅱでは、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士としての運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によつての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次後期必須の実習科目で履修生は98名である。従って受講動機は必須科目である96.3%、資格取得に必要である17.1%であった。授業の実施にあたり大切にすることは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト(化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・浅川雅美著)を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。</p> <p>昨年の「授業の向上にむけて」の欄に、「大学の教養課程で開講する『初等統計学』の授業と比較し、本授業で用いるテキストは難解なものではなく、授業の進め方も説明も速くはない。しかしながら、『説明を聞いても分からない』という意見が多くあり、また2年後期開講の授業計画上、授業外で予習・復習する時間のない状況は続く。そこで、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、記述統計の理解度の向上を目指す。」と記載した。そして記載の通り2017年度は、記述統計の授業を増やし、テキストの例題を時間をかけて行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>評価割合は次の通りである。なお、()内は2016年度、2015年度の割合である。 A:4%(1%,4%) B:19%(8%,14%) C:27%(31%,37%) D:30%(42%,35%) E:12%(16%,10%)</p> <p>授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。</p> <p>1と2 : 3 : 4と5 14%(26%,9%) : 58%(66%,62%) : 28%(8%,29%) (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた 20%(31%,13%) : 58%(66%,69%) : 23%(5%,19%) (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 19%(36%,13%) : 60%(60%,70%) : 21%(5%,17%) (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた 16%(32%,14%) : 62%(64%,63%) : 22%(4%,21%) (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 18%(23%,19%) : 61%(62%,63%) : 21%(14%,19%) (8) コミュニケーション力や表現力を高めることができた</p> <p>自由記述では、回答者46名中「説明が早い」、「説明を聞いても分からない」、「テキストが難しい」と回答した者が7名(昨年34名)いた。学習量の評価において、全く予習をしてこない学生は71名(昨年54名)、振り返りの復習をしない学生は71名(昨年56名)であり、昨年同様に、2年後期から3年にかけて、月曜から金曜の5時間目まで、必須科目や実験実習科目が詰まっており、物理的に時間がないため、他科目のレポート提出で徹夜をしたという学生、本授業中に他の授業のレポートを作成する学生もいたが、今回は、記述統計の割合を増やしたことで本科目に関連するDPの達成度自己評価において、3から5の評価割合が70%以下の項目がないことからDPの達成目標はほぼ達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は専門教育分野に属し、CPIは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。</p> <p>本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価で「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りである。</p> <p>4%(11%) (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる 8%(22%) (2) データの種類について説明できる 23%(29%) (3) 仮説検定について説明できる 16%(23%) (4) 栄養学研究で得られたデータについて、適切な統計的処理方法が選択できる</p> <p>一昨年より演習課題を減らし、授業時間内で出来るようにして配布し、また提出期間を授業時間外で仕上げられるように余裕を持って設定したことで、行動目標について「全くできない」と回答した学生は仮説検定以外は20%以下であることから内容的に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>2018年度より新カリキュラムとなり記述統計を学ぶ「現代社会と統計」の科目が閉講になったことから、次年度2019年度の本科目は大幅な見直しが必要となる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>一昨年、この課題の欄に①例年管理栄養士国家試験を受験する学生が8割程度であることを考えると、管理栄養士必須科目としても良いのではないか、②開講授業が過密する2年後期ではなく、卒業ゼミや卒業研究と同時期の4年前期または3年後期の開講を検討しても良いのではないかと記載した。 ①については次年度2019年度より管理栄養士必須科目に変更されることとなった。一方、記述統計の知識を問う問題や、問題文から数式を立てる問題が最近の管理栄養士国家試験問題に出題されるようになってきた。 学士力の保証、及び学生の数学嫌いが高くはない基礎学力を考えると、臨地実習を終え、食事調査法の手順および統計処理の必要性に気付く3年後期または、国家試験対策に真剣味の増す4年前期に開講するのが妥当ではないかと思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学 I	2	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について学修することを目的としている。授業は、2日間の集中講義で、初日は九州歯科大学、西日本工業大学、本学の3大学による合同授業が行われ、2日目にはグループワーク形式で演習が行われた。本年度の受講動機では、「関心のある内容である」80.0%との回答が最も多く、「単位数の確保」(30%)や「GPAをあげる」(20%)との回答も見られた。2日間の集中講義であったためか、予復習を行った学生は殆どみられなかったため、次年度に向け、講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合的な成績の平均値は94(±3)点であった。9割以上の学生において、理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。2日目を欠席した学生(1名)においては単位取得に至らなかった。学生による授業評価においては、自分なりの目標を達成できた、また、新たな知識を得ることができた、と90%以上が回答していた。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得たと全員が回答し、知識理解の観点、思考判断の観点から教育目標は概ね達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身に付けることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。</p> <p>まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価においては、テスト等の評価基準、学習の範囲や課題などについて、平均点は3.8～4.1であった。評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。学習量の評価において、予復習の時間が十分に確保できていなかったことが窺えたが、「他の分野のことを知ることができて楽しかった」、「授業で興味を持ったことについて調べた」という積極性がみられる意見もあった。また、「パワーポイントを作成する時間が少なかった」との意見が寄せられたため、次年度以降の授業の進め方については検討し、改善に努めたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>学習到達度の自己評価から、9割以上の学生が目標を達成し、新たな知識を得ており、また学びを深めたいとの回答を得た。次年度に向けこれらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容の改善を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3~4	三期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでに履修した教職科目の理論や技術をもとに、教育現場における実践的な食の指導を体験するための栄養教育実習を受けるに当たって、心がまえや予備知識について理解することを目的としている。また、教育実習の成果が高まるように、食の指導にかかわる授業研究について模擬授業を通して実施している。実習後においては、実習中の反省、問題点の整理・分析を行い、今後の課題が明確に認識できるよう報告会を行い、栄養教育実習の学びを十分に高めることに重点を置いている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生が11名のため客観的評価は困難であるが、最終成績、教育実習校からの評価、授業評価の結果より、教育目標は概ね達成されたと考えられる。また、学習量の評価では予習復習を十分に取り組んでいることから、到達度達成度の評価も高かったと推察される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習の事前指導および事後指導のための科目である。事前指導では、教育実習の基本的な知識を身に付けること、事後指導では実習の修得内容から、今後の課題を明確にすることを目的としている。実習校からの評価や実習報告会を含め、総合的に判断し、内容的に妥当であるとする。 ②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、事前では「教育実習の意義と目的、実習にあたっての心がまえ、実習中の注意点を理解し、食の指導に関わる授業研究を実践できる。」、事後では「実習の習得事項から自省的整理を行い、今後の課題を明確にすることができる。」を行動目標としている。最終成績や学習到達度目標では高い評価であったため、内容的に妥当であるとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>受講生が11名であったことから、理解度に合わせて丁寧に進めることができた。最終成績、実習校、受講生の達成度評価のいずれも高い評価であったため、本科目の教育目標は概ね達成できたと考えられる。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>受講生が11名であるため客観的な判断は困難であるが、本年度は総合的に判断し、概ね達成できたと考えられる。本科目は、年度で受講人数に変動があるため、状況に応じて臨機応変に取り組むことが課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の意見としては、わかりやすいという積極的な意見があった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は83(±10)点であり、本試験不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは70%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は2点上昇し、本試験の不合格者は4名から0名に減少したことから、教育目標の達成は大幅に改善した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「授業がわかりやすかった。」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.38、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.9と高かった。授業の質評価では「説明は理解しやすいものであった」の平均が4.2と非常に高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②学生の意見としては、「授業は丁寧な説明で、わかりやすかった」など、好意的な意見が多数あった。今後ともさらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年前期の「臨床栄養学実習Ⅰ」に引き継いでいく予定である。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。</p> <p>③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。</p> <p>④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目であるので、受講動機でも73/75人が必修科目であると答えている。①オリエンテーションの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。②授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。普段かかわりの少ない社会福祉に関して興味や関心を広げるところから始めている。社会福祉とは何か、生活することに何が含まれているのか、どのような方たちが社会福祉を必要としているのか、ソーシャルワーカーへの理解などを含めて授業を展開している。栄養に携わる専門職が社会福祉を学ぶ意味についても時間をかけて説明して、学習の動機づけができるように心がけている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価について平均点は各クラス82.6点と84.3点である。概ね社会福祉全体の理解とそれぞれその学生が興味関心のある現在の日本の福祉的課題について整理することができていた。概ね達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養学科の必修科目として位置づけられている。管理栄養士を目指す学生の社会福祉に関する理解を促し、専門職としての連携を図る上での必要な知識であると思われる。学生の自己評価でも知識を確認修正したり新たに得ること、事象を理解する視点や考え方を得ることができたの項目が一番評価点が高く、平均値は3.7であり内容的妥当性があると考ええる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>課題以外の取り組みはほとんどされておらず、図書館等の利用もしていないとの回答だった。考える題材を提示するなどして工夫していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>普段は社会福祉ではない栄養の学修をしている栄養学科の学生に向けて、社会で起きていることへの興味関心をより広げることができるような情報提供と考える時間を設けていき、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して興味を持ち続けることへの動機づけができるのではないかと思う。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は30名、受講動機は「単位数を確保する」が86.7%、次いで「関心のある内容である」が23.3%であった。</p> <p>授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気付きや思考する機会があるように教材を工夫した。具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、「出来る&何とかできる」と回答した割合は以下の通りである。なお（ ）内は昨年度のデータである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 96%(98%): インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる 100%(100%): 分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる 100%(100%): 適切に情報検索することができる 100%(100%): 適切に情報検索することができる 100%(91%): 公開されている統計資料を適切に読み解くことができる <p>成績の評価は、A評価は10.3%(6.7%)、B評価37.9%(23.3%)、C評価13.8%(33.0%)、D評価13.8%(0%)、E評価13.8%(0%)であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。</p> <p>1年次前期の情報科学演習1では、学生生活に必要な内容(学生としての自分と学び)を重点にし、後期の本情報科学演習2では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。</p> <p>前述の学生の目標達成状況から、DP,CP,カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>昨年、「情報科学演習2」は比較的パソコンの得意な学生が履修しており、教育目標はほぼ達成できている。一方、2年後期の必須科目「健康情報処理実習」では、行動目標を達成できていない学生が3割いる。 そこで、2017年度の授業では、Excelを使った記述統計の演習を増やし、2年次後期開講の「健康情報処理実習」においてSA(Student Assistants)の役割を果たせる学生の育成を目指す。」と記載した。 そして今回、Excelの演習とプログラミング実習(マクロとVBA)の演習を行った。その結果、成績にバラツキが生じたものの、Excelやプログラミングに興味を持つ学生が少なくないことが分かった。今後も統計処理のためのExcelとプログラミング実習の授業を実施する予定である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>達成状況はおおむね良好だと考えている。</p>
------------------------------	----------------------------

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また適宜、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は79名であったが、そのうち60名(75.9%)がA評価であった。またB評価も13名(16.5%)でC評価は2名(2.5%)、D評価はわずか1名(1.3%)であった。またDPの全ての項目について、平均値が3.6～3.8であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、1名を除いて「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が3.7であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。本演習にまで学習時間が確保できないことが考えられるが、次年度以降も事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。一部の学生からスライドよりも板書を使用した授業の方が良かったとのコメントがあったことから、次年度はスライドの内容を少し整理して詰め込みすぎないように配慮したい。また毎年の課題でもあるが、受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上、寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるように務めた。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、緩急の匙加減が難しい科目である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>①今年度の結果(前年度との比較考察を含めて) 本試の受験者96名で合格者は86名(90%)で、前年の合格者38名(42%)で、前々年の51名(46%)を大きく上回った。再試験受験者は42名で前年の64名を下回った。これは再試験未受験者が12名と前年3名に比較して多かったからである。再試験の受験者は7名で6名が合格(前年の再試験合格者は38名、91%、前々年が51名、80%)であった。</p> <p>②最終的に、再試未受験者5名と再試不合格者1名と併せて、再履修者が6名(前年は22名)であった。再履修者(3・4年生)の12名のうち11名が合格(前年は27名が全員合格)であった。本試と再試を総合すると、受験者96名中90名(94%)が合格であり、前年の118名中96名(81%)合格、前々年の127名中102名(79%)が合格と比べ、この3年間でもっとも良い結果であった。最終評価は、秀11名、優27名、良27名、可25名、不可6名であった。</p> <p>③本試験の出来・不出来は、試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまで7年間の試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はかなり高く、理想的レベルに達していた。学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」において、例年どおり、高評価であった。</p> <p>④クラス間差について 平均点はAクラス73.9点、Bクラス68.4点で僅差であった。標準偏差は、Aクラス45.3、Bクラス3.5であり、大差が観られた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、配布物一覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応した。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②「食中毒」と「食品添加物」についてももう少し理解を深めさせるための時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対処したい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能総合実習	1	後期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は一年後期の選択科目であり、内容は、担当教員である尾上および岡部の専門である生化学および生理学の初学者向けの実習と実験である。今回の受講動機をみると「必須科目である」と答えたものが86.6%と飛び抜けて多く、次いで「資格取得に必要である」が19.4%であった。逆に、「関心のある内容である」を受講動機とする学生は、1.5%とほとんどいなかった。尾上および岡部は、同時期(一年後期)に、それぞれ生化学Ⅰおよび応用生理学の講義(座学)を行っているが、それらにおいて「関心のある内容である」を受講動機とする学生は、それぞれ2.8%および3.2%と低い。座学と比較して「関心のある内容である」と答えたものが、更に少ないことは決してよい傾向ではない。生理学、生化学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であり、意欲的に学習に取り組むことを本実習を通して啓蒙することが出来るように工夫していきたい。</p> <p>②生理学、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、座学と並行して学んだ内容をただ単に丸暗記するのではなく、関連する実習を通してからだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを頭脳において本科目を構築している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない	やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均点は72点で、76名中4名が不合格であった。不合格者は、全員出席不足(2/3未満)が原因であった。80点以上のものが7名、70点～79点が52名で、70点以上が全体の82%であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、全項目で平均が3.1点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。</p> <p>成績評価は、レポートおよび実習への取り組み(「その他」の項)で行ったが、レポートの点数がほとんどの学生で比較的低かった。これは、実験で観察された事実やデータの客観的、論理的解釈や考察が不十分であることがほとんどの原因であった。また、「学習量の評価」で、14名の学生しか30分以上の予習および復習を複数回実施していない。座学と異なり、より実践的な状況に近い本科目の様な実習に対する意欲・関心の啓発の達成度は、やや不十分であると考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の位置づけは、専門基礎分野の選択科目であり、管理栄養士国家試験受験資格取得必須である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、実際に学生が意欲を持って取り組み、考える力をつけたか、という点(数字には表れにくい)においては、改善を目指していきたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、および意欲関心および技能表現を問う科目である。授業内容は、知識理解と技能表現を促すためのものとして、おおむね妥当な内容であったと考える。しかし、実際に十分な知識理解、技能表現を達成するためには学生一人一人が意欲的に取り組むことが大前提であり、この点、ほとんどの学生がまじめに取り組んではいたが、意欲において、今一歩不足していたように見受けられた。その結果、教育目標の達成度は、いずれも「やや達成された」と判断した。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」は、それぞれ3.3、3.3、3.1であった。解剖生理、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるので、より一層わかりやすい説明を心掛けていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ座学の内容および身の回りの事例に関連付けながら実習を進めていく必要がある。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学 I	1	後期	必修	いいえ	132

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」97.2%、「資格取得に必要である」14.8%、次いで「単位数を確保する」5.6%であった。一方、「関心のある内容である」は、わずか2.8%であった。生化学を意欲的な動機から受講する学生がほぼいない事実は、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、以後の講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。後尾の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、必要な改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終成績の平均点は54点、不合格者は再履修者を含めた受講者130名中54名(未受験者を含む)であり、合格率は、約59%と、ここ数年で飛び抜けて低かった。優(80点以上)は7名、秀(90点以上)は0名であった。50点未満での不合格者(未受験の学生7名を含む)は、45名であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向多見られた。約84%の学生は、予習・復習ともに0～2回しか行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度の試験問題は、例年より優しいものとなった(まじめに取り組んだ再履修者からも、そのようなコメントを口頭で伝えられた)にも関わらずの結果である。しかし、本年度の1年生が、例年より受講態度が悪いという印象は受けなかった。まじめではあるが、論理的に考えたり、理解しようとする姿勢が足りなかった可能性がある。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、平均点、合格点共に低かったため、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確認することに努めたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる工夫は多いに必要であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点が、2.8と低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にももう少し意欲的に受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本年度は、合格率、平均点とも満足行く者ではなかった。本年度の学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体としては、高評価に値するものであった。このことが高い合格率に結びつかなかった原因は、わからない。講義中または講義後に質問や発言をする学生は、例年通り少なかった。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会を増やしていく工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの専門基礎科目および専門科目で学んだ中で、学生が関心を持った領域から、担当教員との話し合いでゼミのテーマを設定し、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深めることを目的としている。また、自己啓発に努め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることも目標として掲げている。</p> <p>本科目は、選択科目ではあるものの、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成との位置づけであり、学生は開講ゼミの中から、関心を持ったゼミを選択している。そのため、当然のことながら、受講動機は全学生において『関心のある内容である』との回答であった。また、ゼミテーマ達成のためには、自主的な学修は必須であり、学修準備性については、ほとんどの学生が積極的に取り組んでいた。また、半数以上の学生がインターネットの利用を積極的に行い、問題解決に向けた努力が認められた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>本科目の成績は、全学生(100%)が理想的レベル(80点以上)に到達しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。学生は提示されたさまざまな課題に対し、十分に予復習時間を確保し、積極的に取り組んでいた。本科目に対する準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、全学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたことと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。さまざまな課題に対し、積極的に取り組み、解決へと導くことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。また、様々な食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、専門的知識・技術修得の重要性の気づきになったものと考えられる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。また、学生からの意見として『適材適所での人員配置が良かった』とあり、学生の個性や能力に合わせた課題の提示等、学生の意見を尊重しつつ、個別対応を含めた活動としたいと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目標としている。本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、全学生が理想的レベルを達成した。同様に、達成度自己評価においては、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。様々な課題に対し、積極的に取り組み、さまざまな食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験の受験科目ではない。自由選択科目であるが、例年ほぼ全学生が受講している。四年次のアドバイザーは、基本的には、この卒業ゼミ担当教官が兼任することになっている。従って、担当教官は、ゼミ研究の遂行だけでなく、就職支援、国家試験合格支援を行うことになる。従って、受講動機が「関心のある内容である」でポイントが高いことは必然として理解できた。</p> <p>②週一回の国家試験対策の勉強会には、国家試験受験者は全員が参加し、結果的に、受験者6名全員が合格した。</p> <p>③ゼミについては、文科省指針に従って、2単位分の実験実習科目と同等の扱いとするために、72時間30分+実験に関する打ち合わせに要する時間=80時間として、その時間内でひとつの研究が遂行されるように指導し実施した。実験のとりまとめ(レポート作成)の時間は、この80時間には含めなかった。レポートの質は、これまでに全員が大変高い質を確保することができた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年、就職が順調に決まらない者と、管理栄養士国家試験のための学習が思うように進まない者は、途中で本科目の履修を放棄して、就職活動もしくは国家試験対策の学習に集中する。前々年度の放棄者は4名(23%)であったが、今年度と前年度は皆無であった。今回の受講生6名全員が卒業までに就職内定を勝ち取ることができた。</p> <p>②受講者のゼミ研究内容は例年に比べて質の高いものであった。</p> <p>③学生による授業評価においては、グループ研究方式を一昨年度からやめて、マンツーマン方式に切り替えたことが効を奏した。</p> <p>④次年度の改善目標としては、これまで通り、個々人の個性に合わせて、さらに就職活動の時期や状況をよりの確に考慮しつつ、研究指導を行って行くことである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えた。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」「態度」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われた。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①自由選択科目であるが、受講学生のアドバイザーとしての任務を兼ねるため、就職支援と国家試験合格支援のために割く時間はかなりの時間となり、その労力も 測り知れないほどに大きい。そういう意味では、大変責務の大きな科目となるが、今後も受講生の進路支援を充実させて行く方針は変えない。 ②受講者は、就職活動と国家試験対策の学習という大変忙しいなか、質の高い研究を成し遂げてくれた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①全員が卒業ゼミ研究を完成させることができた。 ②就職については、長期療養者を除いて全員が内定を勝ち取ることができ、かつ、国家試験受験者6名全員が合格し、これまでと同様の素晴らしい結果を出す ことができた。 ③今年度は受講生が比較的少なく、目が行き届きやすく、より細かな指導ができたと思う。今後も、今年度にならって、卒業ゼミの受講者を5名前後と少数精鋭化し て、より細かな指導ができるような体制で実施して行きたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、自由選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。 ②6名の希望者のテーマは和菓子開発、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。 ③最終的に和菓子開発は2種のデザインが起用され、商品化された。食育活動に関しては、作物の収穫後、その作物を使用した食育実習を行った。栄養相談や体組成測定等、調査を行ったものは集計およびそのまとめを作成した。 ④本人の自由意思でゼミ活動が行われたため、進捗状況に差が見られた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動であったため、積極的にどのテーマにも参加し、活発に活動したものはS評価とした(4名)。その他2名がA評価となった。人(高齢者)を対象に行った栄養相談業務は社会人として、管理栄養士として今後働く上で、良い経験となっていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるので、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価の平均点数が4.5点と高く、授業の質評価においても、4.2点とほぼ高い評価となった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。積極的に活動に参加できたかを評価するため、ゼミ活動開始前後に、学生の知識、意識、意欲等の調査を行うことも重要であるとする。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年間の集大成の科目である。ゼミのテーマについて調査・研究計画を立案し、計画に従って調査あるいは研究を実施することであり、将来、管理栄養士として直面する課題に対する解決方法を身につけることを目的としている。受講動機は、「関心のある内容である」と回答した学生が88%であった。昨年度の課題であった、「受講動機にばらつきがあること」への対応として、ゼミ選択時の説明でテーマについて詳細に説明することを挙げていた。今年度は、学生にテーマを詳細に説明したことから、テーマに関心のある学生が選択し、学習準備性も整っていたと考えられる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終成績は、「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価においてはすべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。学習量の評価では、88%以上の学生が予習復習や自発的学習に取り組み、主体的に学習していることが示された。また、各テーマに関する課題の取り組み状況や、ゼミ活動への積極的な態度が見られたため上記評価とした。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。</p> <p>本ゼミのテーマは、ライフステージに応じた食育に関連した内容であり、また公開講座において体験的に学習することで、管理栄養士に必要な実践的スキルや知識の修得に繋がったと考える。到達度自己評価においても、専門分野においての各項目に対して平均4.0以上と評価が高いことから、専門的知識、理解が深まったと推察される。このことから、内容的妥当性については問題ないとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったと考えられるが、受講動機にばらつきがあったため次年度より説明の時に明確に内容を示すことが課題である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。本ゼミでは、受講動機や学修の準備性にばらつきがみられたものの、実際には積極的に課題に取り組む姿勢が見られ、到達度自己評価も全体的に高かったことから、内容的妥当性はないものと思われる。 しかし、4年間の集大成という位置づけであることから、学習成果をより高めるためには受講前の明確な説明をすることが課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。また、本年度は障害者支援施設の給食部門と連携し、一般成人向けの昼食用弁当の企画・生産・販売を実施した。この取り組みは、給食施設管理栄養士との連携が必要であり、指導教員の担当科目の専門性にも合致した内容である。履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。一方で、「単位数確保」や「その他」を選択している学生もおり、このことから学生間に取り組みへの温度差があったことが確認できる。2016年度は、学生の活動への取り組み姿勢から、各学生の特性に合わせた役割分担を検討させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価から、「知識の確認・修正」(評価3.9)ができ、「「事象を理解する視点・考え方」専門分野への学びの意欲」「コミュニケーション能力」が身に付いたと評価する者が多くいた。また、「行動規範」等を学ぶことができたとし、「職業選択の参考になった」と評価された。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考えられる。いずれも、評価の平均は4.0を超える高い結果であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>4年間の学習内容を総合して取り組むのが卒業ゼミであると考えらる。本ゼミ活動は大学生活で得た知識・技術を実践する活動内容であることを重視しているため、到達度の自己評価の結果から、内容的に十分に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価から、特に「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。これは、担当教員への意見の内容からも支持される。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015・2016年度の総括に「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示し、2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設けることとした。前述の対応を取り入れたことにより、例年よりも比較的スムーズな役割分担が可能になったと思われる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」16/6名(100%)であった。昨年度に単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時(面談時)に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。</p> <p>②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会(低出生体重児とその保護者の会)で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行ってきた。学生たちは、このほほえみの会の活動を行っていくなかで、自然とチームで活動することの大切さを(3学科協働の精神)身につけることができたと考えられる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>①DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP4(態度)、DP5(技能表現)すべてにおいて、準備から実施にいたるまでのゼミの活動や提出物によって評価した。特にDP2および5についての学生たちの自己評価が高く、学生個々人がゼミ活動を実施していく中で、課題を検討する意欲や学びをふかめる意欲が芽生え、必要となる技術も身につく、さらにはコミュニケーション能力・表現力を高めることができたものとする。ゼミ活動が就職選択の参考になった「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、この回答からも学生が意欲をもってゼミ活動を行ってきたことが推察される。</p> <p>②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。今年度は、課題学習や自己学習のために図書館やインターネットの利用が少なかった。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用が低かったことに関して、今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。ゼミの活動時間は、3学科の協働の時間であり、栄養学科の学生個人との時間をなかなか持つことが出来なかった。今後は、ゼミ活動以外にもゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な面で学生のサポートをしていきたいと考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目の位置づけは、4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ(教員)を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ(授業)改善を行っていく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①専門である「運動生理学」に関連した学生の興味関心事項をゼミのテーマに取り上げ、学生の実動力を高めるよう務めた。本年度のテーマは「アスリートの栄養状態」の調査をテーマとした。学生の準備性は過去の運動部経験のみで、確固たる運動に関する知識は殆ど無い状態で始まった。しかし、各人の経験を考察に生かしながら進み、深く研究できるようになったと思われた。</p> <p>②本研究室の運動生物学研究に栄養学の新たなカテゴリーが加わり、これまでのテーマの方向性が変わったことを印象づけた。</p> <p>③研究ノートを作成させ、毎週の研究学習から調べたことなどを確認し助言し、学習意欲を確認しながら進めた。</p> <p>④ゼミでは、就職試験時の面接対策を年頭に受講するものが多いが、その主眼を研究調査の興味から受講させるような魅力を持たせるように務めたが、そのことを今後も続けたい。そのためのゼミ紹介の検討をしたいと思う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>受験者8名の中で、単位修得が目的2名、興味関心3名であった。、実験、解析、結果の考察等、一連の作業を積極的かつ首尾良く行ったことは評価される。また自己達成度では自己の専門分野日の参考になったこと、職業選択の上で参考になったことが挙げられ、達成感を感じさせることができた。</p> <p>実験測定に参加状況、参加態度、研究ノートの作成状況、実験の手法の定着性、解析の緻密性、結果に対する理解度や考察の広がりや評価の根拠とした。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がない。これは、思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて思考判断の目標を明確に伝えるよう工夫するようにしたい。</p> <p>なお、国家試験の受験と卒業研究が重なることはどちらに対しても時間的干渉が避けられない。大学生の卒業研究の意義の重要性を鑑み、カリキュラム上で開講期間の工夫を検討して頂きたい。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本運動生理学研究室の専門と栄養学科生の特徴を融合した研究テーマを示していた。</p> <p>②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高かった。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。 ゼミの内容はその研究室の特性から、受講生が選ぶものであるが、大学生が卒業研究をしなくても良いというものではない。しかしその選択が国家試験との兼ね合いで、半数以下の学生しか選択しておらず、卒業研究に至っては1名と聞いている。他大学では必修であったり、就職の面接での問項目であるにも関わらず選択されないのは非常に矛盾を抱えた開講状況と言える。今後の制度的発展を期待したい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>ゼミ生の理解度に応じて進度を変えた。ゼミの場合は個人の進捗が明瞭に感じ取られるため、このような進め方も有効と感じた。しかし、学習量は増えたとは示されなかったが、図書館等の利用を積極的に行っていたので、学生が自覚できるような学習状態の提示をしていくことが必要かと考える。次年度への課題とする。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本授業によって、自宅での作業、予習復習を行ったり、図書館を利用したり、積極性を感じられるような学習態度がみられたことは評価できる点である。しかし、卒業必修科目ではないことから、研究に注ぐ時間は積極的といえない。ただ、運動生理学とはどのような者かをの本流を伝えられたと考える。 ところで、ゼミ選択が、本学栄養学科の学生は過半数以下となり、4年制の大学の卒業単位としてその意義を失いつつあると判断できる。ましてや卒業研究(卒論)を撮る学生が数名という状況では、大学の本質は卒論を軽視し、国家試験勉強に移行してしまっている。このような中での授業の評価はおのずと低くなると考える。科目、単位の意義、カリキュラム上の検討が必要と考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	後期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから話を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした(印刷物も同様) ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し覚えるポイントとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は87±6.9点、再試3名、4名が出席不足で受験資格なしであった。80点以上が90%であり、79点以下が10%であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.4、3.0、(2)知識の確認修正:3.7、4.0、(3)事象を理解する考え方:3.5,3.0(4)課題検討力:3.7,4.0(5)的確な判断:3.6、4.0、(6)学習意欲:3.8、4.0であった。 この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価の(3)説明は理解しやすいものであったでは平均点3.7、中央値4.0で平均並みと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.3、中央値3.0とやや低い。授業の最後にその回の内容をまとめた問題を解く時間を設けているため、学生に発表させるなどの方法を取り入れ、参加型授業を組み込んでいきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業の最後にしっかりと問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたい。 しかしながら、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が非常に希薄になっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「資格取得に必要である」44.4%、「単位数を確保する」38.9%、「必修科目である」22.2%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたこと、および開講中の2017年10月に衆議院の解散総選挙があったことから、当初のシラバスとは後期計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行った。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均9%程度(1回あたり2-3名)であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の平均点は69.33点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点(最高10%)することで総合評価とした。その結果、再試対象者は0名(ただし放棄者2名)、理想的レベル(80点以上)に達した者は2名であった。学生による到達度自己評価については、すべての項目について平均値が3.2-3.3の間にあり、他学科に比べて低い数値にとどまっている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が約3分の1であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「評価基準は明らかであった」の平均値は3.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値がともに3.5であった。昨年度より0.1-0.2上昇している。加えて、今回から毎回講義終了後に学生にコメントを任意で提出する機会を与え、毎回5名前後の学生が提出していた。そのため、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.7となり、昨年度より0.6上昇した。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生・復習を全くしなかった学生はともに89%であり、他学科より数値が高い。今後は予習・復習の必要性と具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外に学習していない理由として「授業内の学習で十分だと思ったから」、「何をすれば良いか分からなかったから」、「時間がない」などの記述が見られた。毎回のコメント提出で十分だったせいか、学生の意見は特になかった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
微生物学実験	2	後期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機は例年と変わりなく「必修科目である」にほぼ集中している。「関心のある内容である」は極めて低いレベルに留まっているのは寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ実験内容に興味と関心を引きつけるように努めた。</p> <p>②例年同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「微生物学」と「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価 一般社会に出ても通用するような文書作成能力を身に付けてもらうために、実験レポートを国際基準に従って書くよう指導している。この実験レポートの提出が2回あるため、受講生にとって、大きな負担となるが、反面、その効果(文書作成能力の向上)は著しいものがある。今年度も、受講生は期待どおりの成果を残した。</p> <p>②今年度の結果(前年との比較考察も含めて) 実験最終成績の平均値は75.8点(前年は87点、前々年は78点)であり、再試対象者は0名であった。この3年間で最も悪い成果であった。90点以上の秀評価13名(前年は52名、前々年は24名)、80点以上90点未満の優評価14名(前年は12名、前々年は14名)と、理想的なレベルに達している者が31%(前年は69%、前々年は35%)という結果であった。</p> <p>③クラス間の違い 平均点はAクラス76.9点、Bクラス72.7点で大差なし。標準偏差は、Aクラス17.0、Bクラス6.4と、僅かな差であった。</p> <p>④学生による授業評価 「到達度自己評価」、「授業の質」双方の評価において、例年どおり高評価であり、特記すべき点はない。「毎回の実験に興味を持った」という趣旨のコメントがあり喜ばしい成果であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「微生物学」「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①「参加する機会が作られていた」の「授業の質」評価は例年どおり高い。 ②他の授業とのバランス上、これまでも実施してきた「授業課題の削減」を検討して、学習の質を下げずに学生の負担軽減を図りたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>①基礎実験のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。 ②受講生が初めて体験する微生物の取扱いを行う実験であり、実験目的・手法・原理について、今後もより判りやすくする工夫を重ねて行いたい。 ③文書作成能力が明らかに向上したことが明確に判り、今後も、実験レポート作成手法は変えずに実施して行く。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
病理学	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生後期になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤後期後半(11月末)より、担当教員(南里)の怪我による入院のため、残りの講義を栄養学科・田川教授(疾病診断治療学担当)に代講していただいた。</p> <p>⑥田川教授の講義について、大変わかりやすいと学生に好評であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は92(±6)点であり、本試験不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは90%を超えた。</p> <p>②学生による授業評価においては、特に田川先生の講義について、「授業がわかりやすかった」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の必修科目であるが、国家試験の「人体の構造と機能及び疾病」に出題される内容であり、CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみて、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 期末試験の成績において、概ね良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的には概ね妥当であったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.6と高かった。授業の質評価では「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.9と非常に高かった。学生の成績をも踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②学生の意見としては、特に田川先生の講義について「授業は、わかりやすかった」など、好意的な意見が多数あった。今後ともさらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。</p> <p>③次年度より、この科目は、「病理基礎医学」と名称をかえ、担当も田川先生に引き継いでいく予定である。</p> <p>④田川先生が後半の授業で実施され、効果を上げた、「毎回の授業のねらい具体的提示」、「小テストの実施」、「予習・復習課題の提示」などの授業改善策により、次年度以降の「病理基礎医学」がよりわかりやすい講義となることを期待したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほぼ全ての学生の受講動機は『必須科目である』であり、約20%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、半数以上の学生が予復習時間を確保していたが、自発的学習に取り組んだ学生は10%程度と少なかった。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は78.2(±8.7)であり、昨年度(73.8(±8.2)点)よりも高い得点であった。また、本試験合格者は全体の96%であり、成績の平均値同様、昨年度(94%)よりも多かった。実際には、28名(30%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は47名(51%)であった。試験内容としては、筆記試験、実習試験および課題等であり、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。そして、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、全学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の到達度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養:病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。学生の到達度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察される。ただし、『説明がわかりにくい』『圧が強い』との否定的な意見(1名)があったことから、説明に対する工夫ならびに適切な学生指導を行うことを改善目標とし、本科目のより一層の充実を図る。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、80%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培う。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、80%以上の学生の受講動機は『必須科目である』であり、約40%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、80%以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は約30%程度と少なかったが、2016年度の15%に比べて、約2倍に増加した。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためであり、実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。一方、学生の中には自発的学習を行った者も含まれており、学生は多忙であったにもかかわらず、時間調整を行い、学習を遂行した理由として、本科目が臨床実習Ⅱ(病院実習)と直結する内容であったためであろうと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は93.0(±8.8)点であり、本試験合格者は全体の98%であった。実際には、3名(約3%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は83名(94%)にも上った。毎回、事前学習・事後学習のための2種類のレポートを課し、これらのレポート内容にて、評価を行うことを示しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。これらのことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、95%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養:病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。学生の達成度自己評価においても、95%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察される。ただし、課題についての自由記述として『感想よりもレポートを増やした方が良い』とあり、次年度以降は課題の内容等について、再考したいと考える。本科目については、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、95%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年後期になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>③毎回小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①実習の成績の平均値は85(±11)、本試験の不合格者は3名、再試の不合格者は1名であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点が10点上昇、本試験不合格者数は本試では昨年の10名から3名、再試では昨年の5名から1名に減少した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「わかりやすかった」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門分野科目」であり、専門応用科目に相当する必修科目である。国家試験の臨床栄養学分野で多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.8、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.9と高かった。授業の質評価では、「説明は理解しやすいものであった」が平均3.9と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②以前「オムニバスで内容が混同した」という意見があった。今年は学生にわかりやすい授業になるように授業の順番を含めて改善した。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①専門分野科目にあたる本科目の位置づけから、臨床栄養学的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年生の「臨床栄養学実習Ⅱ」や「栄養治療学」に引き継いでいく予定である。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。</p> <p>③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。</p> <p>④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、授業の順番を含めて来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	--